

令和6年度 第1回 霧島市ふるさと創生有識者会議

開催日時	令和6年10月29日(火) 14:00~15:50		
開催場所	霧島市役所 701・702 会議室		
出席者	有識者	本田 泰寛 委員長、鶴ヶ野 未央 副委員長、森菌 かおり 委員 前野 里美 委員、竹田 智昭 委員、斑目 信行 委員、山口 慶子 委員 村上 和 委員、田間 美沙緒 委員、林 慶藏 委員 (全15委員中10人が出席)	
	霧島市	地域政策課：今村 主幹 市民活動推進課：金丸 市民活動推進課道義高揚推進室長 保健福祉政策課：森山 主幹 健康増進課：上小園 主幹 子育て支援課：小橋 主幹 農政畜産課：唐鎌 主幹 商工振興課：西村 主幹、肥後 特任課長 観光PR課：隈元主幹、大保PR推進G長 建設政策課：中村 主幹 教育総務課：山内 主幹	
	事務局	藤崎 企画部長、野村 企画政策課長、藤田 主幹 山中 企画政策Gサブリーダー、永田主事、貴島主事補	
公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	1人
<p><u>会次第</u></p> 1 開会 2 企画部長あいさつ 3 委員の自己紹介・あいさつ 4 議事 (1) 委員長及び副委員長の選任について (2) 霧島市の総合戦略(地方創生)の取組について 資料1 (3) 第3期霧島市ふるさと創生総合戦略の取組について 資料1.2.3 5 その他 6 閉会			

議事等の概要

議事

Ⓔ：委員 Ⓔ：事務局

(1) 委員長及び副委員長の選任について

互選により【本田 泰寛 委員】が委員長に、指名により【鶴ヶ野 未央 委員】が副委員長に選任され、それぞれ挨拶を行う。

(2) 霧島市の総合戦略（地方創生）の取組について

→ 事務局（企画政策課）から資料1の2～11ページに基づき説明、資料2、3の説明。

Ⓔ 質疑なし

(3) 第3期霧島市ふるさと創生総合戦略の取組について

→ 資料1の12ページ以降を3回に分けて質疑。

まず、事務局（企画政策課）から資料1の12～15ページに基づき説明。

Ⓔ 外国人宿泊者数のKPI等数値は増加しているが、その要因分析ができてくると霧島の強みを生かした訪れたいまちの戦略推進に繋がるのではないかと。

Ⓔ 海外誘致セールスの際には、高付加価値な体験へのニーズがあるので、霧島市でしかできない特別な体験をPRしている。

Ⓔ 国際線も増え外国人観光客増が考えられるが、外国語の看板やアナウンスによる案内は整備されているか。

Ⓔ 外国人観光客への対応としては、英語版のほか繁体字、簡体字、韓国語版の観光パンフレットを作っており、観光案内所や空港、駅などに設置している。

Ⓔ 霧島神宮アクセスバス実証運行が開始されているが、利用者が少ない印象がある。観光客から17時以降に空港に向かいたいというニーズが多いがアクセスバスを利用できない。休日利用できる便数を増やすと利用者数も増えるのではないかと。

- ㊦ 既存のバス路線も考慮しながら、また実証運行の利用状況等を踏まえ、観光で訪れる方の利便性を考慮していきたい。
- ㊦ 霧島神宮アクセスバスの運行と併せて路線バスの1日乗車券発行により観光地等へのアクセスの改善につなげている。外国人観光客も検索サイトで交通実態を調べ公共交通機関を利用される。高速ブロードバンド環境も整備しており、Wi-Fi環境も整えられるようにしているので、観光看板なども、デジタルを活用した観光推進を図っていく必要がある。
- ㊦ 日常や旅行時に使う路線も検索ができるようなデジタル環境が整備されると海外からの観光客も旅行をしやすくなる。

→ 事務局（企画政策課）から資料1の16～29ページに基づき説明。

- ㊦ 小規模校、大規模校それぞれで課題があると思うが、市として小中学校の統廃合の考え方があるか。
- ㊦ 小規模校・大規模校の今後の方向性については、地域の意見を尊重し、積極的に行政側から統廃合等をすすめることはしていない。
- ㊦ AIオンデマンド交通（きりしまMワゴン）利用者は高齢者の方が多いと思う。高齢者向けスマホ教室も行われるなど今後もDXが推進されていく。令和5年度で962人の会員登録者のうち、電話、インターネットのどちらの予約利用が多いか。
- ㊦ 電話予約が7割程度である。また、高齢者の利用が非常に多いが、最近では児童の利用も増えてきている。
- ㊦ AIオンデマンド交通（きりしまMワゴン）の利用事例などを発信していくと、今後利用数も増えるのではないか。
- ㊦ AIオンデマンド交通（きりしまMワゴン）の962人の登録利用者のうち1日の平均利用者数はどの程度か。
- ㊦ 1日の平均利用者数は、1月時点で17.7人、7月時点では48.4人となっている。

→ 事務局（企画政策課）から資料1の31～35ページに基づき説明。

園 米の値段が非常に上がっている。単価上がれば農業生産額が上がるがいつまで続くか分からない中、就農者、新規就農者への施策についてどのように考えているか。

㊦ 農業産出額は衰退しないようにKPIは維持する目標としている。鹿児島県は農業産出額は高いが、一方で、農業所得は低いほうに位置付けられている。新規就農者もKPIで示しているが右肩下がりである。今後も新規に就農する方を支援する施策に取り組んでいく。

園 地元の中小企業の成長発展には、やはり人材確保が大きな課題であるので、市として今後も人材確保につながる様々な取組への検討をお願いする。

㊦ 市として地元企業を知る機会として高校生への工場見学会やインターンシップ等を実施している。このほか、今年は県や先般設立された地域雇用創造協議会とも連携しながら事業を展開し、地元雇用に結び付けていきたい。

㊦ 教育委員会では中学生向けに「中学生の挑戦！霧島しごと維新」という地元企業を知り、地元で働く素晴らしさ等を知ってもらう取組を行っている。

園 地元就職してもらうためには、高校や大学を卒業するタイミングで地元企業を知ってもらうのでは遅い。小中学生の時から地元には様々な魅力的な企業があることを知ってもらう、地道な活動が必要である。

給料や大企業のネームバリューなどで学生は県外に就職していく。隣県が半導体の一大製造基地のようになってきていることなどから、KPI値（市内就職率）の低下も懸念されるので、産官学連携の取組が今後も必要である。

Uターン等により地元就職につなげることも手段であるので、そのために行政を中心に情報発信を行うなど、安心して帰ってきやすい環境づくりを進めてほしい。

会議資料	会次第
	資料1 霧島市ふるさと創生有識者会議
	資料2 第3期霧島市ふるさと創生総合戦略 KPI 進捗一覧(令和5年度)
	資料3 第3期霧島市ふるさと創生総合戦略成果検証一覧(令和5年度)